

平成20年度 公共事業再評価

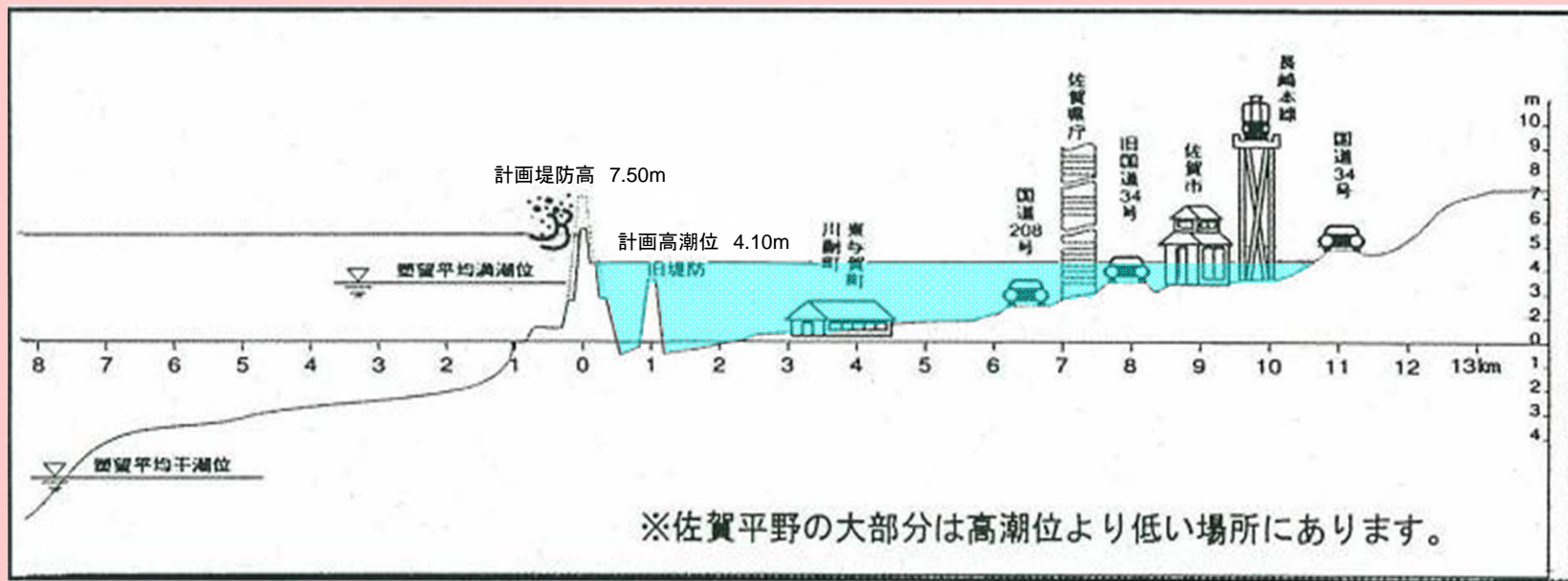
県営海岸保全施設整備事業(高潮対策)

国造地区(佐賀市川副町)

平成20年10月30日

海岸保全施設整備事業とは・・・

「海岸法」に基づき指定した「海岸保全区域」において、海岸堤防等の「海岸保全施設」を整備し、住民の生命・財産を高潮や津波、波浪、浸食から防護することにより、国土の保全と民生の安定を図ることと目的とする事業です。



海岸保全施設整備事業の概要

海岸の現状

- ・本県は、台風の常襲地帯であり、たびたび高潮災害が発生
- ・有明海沿岸の海岸堤防は、沈下等による老朽化が進んでおり、防護機能が低下

事業の実施

消波工や堤防の嵩上げ等、
緊急性の高い箇所からの整備

事業の効果

高潮、浸水被害の解消

現在の取組み

- 直轄海岸保全事業 2地区
(国土交通省・農林水産省)
- 県営海岸保全事業 10地区



有明海沿岸 海岸保全事業 実施状況

農水省所管 (農村振興局)		国交省所管 (河川局)	
①	大詫間	①	大詫間海岸
②	南川副	②	川副海岸
③	国造	③	芦刈海岸
④	西川副	④	有明海岸
⑤	東与賀	⑤	東与賀海岸
⑥	久保田	⑥	嘉瀬海岸
⑦	福富(直轄)	⑦	福富海岸
⑧	廻里江	⑧	鹿島海岸
⑨	浜		
⑩	七浦		
⑪	有明(直轄)		



凡 例		採 択 要 件
— (solid blue)	県営海岸保全事業 (農水省所管)	総事業費 1億円以上 1Kmあたり防護面積5haまたは防護人口50人以上
— (solid brown)	国交省直轄海岸保全事業 有明海岸(H20完了予定)	総事業費 50億円以上
⋯⋯⋯ (dotted brown)	国交省直轄海岸保全事業 有明海岸(H15完了)	
— (solid red)	農水省直轄海岸保全事業 福富地区(実施中)	
⋯⋯⋯ (dotted red)	農水省直轄海岸保全事業 有明地区(H17完了)	

海岸保全施設整備事業

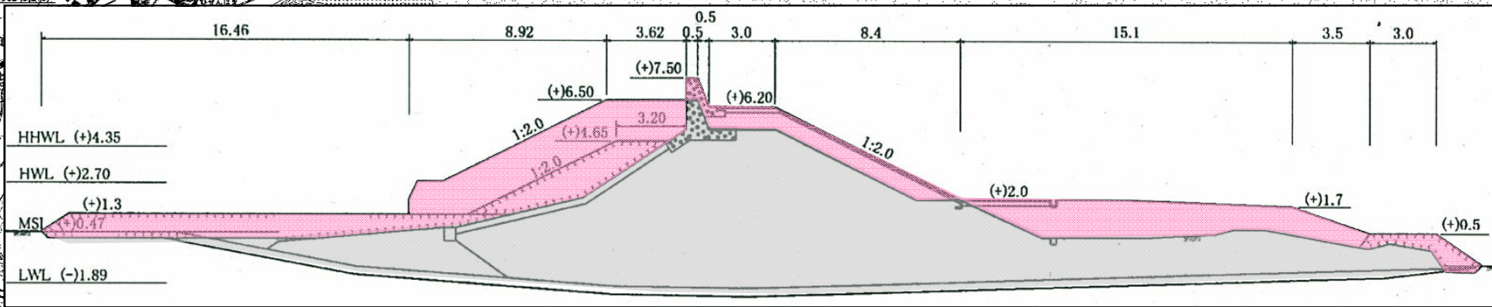
国造地区

位置図



国造地区

標準断面図



国造地区の海岸堤防の現状

- ・海岸堤防は、干拓事業(S30~47)により造成
- ・有明海岸の沖積粘土などの極軟弱地盤上に築造
⇒ 不等沈下による亀裂等が発生
- ・堤防高は、伊勢湾台風クラスを想定し、T.P+7.5m
(既設+6.5m)で設定



過去の台風による被害 (昭和60年台風13号)

越波により流失した背面盛土(国造地区)



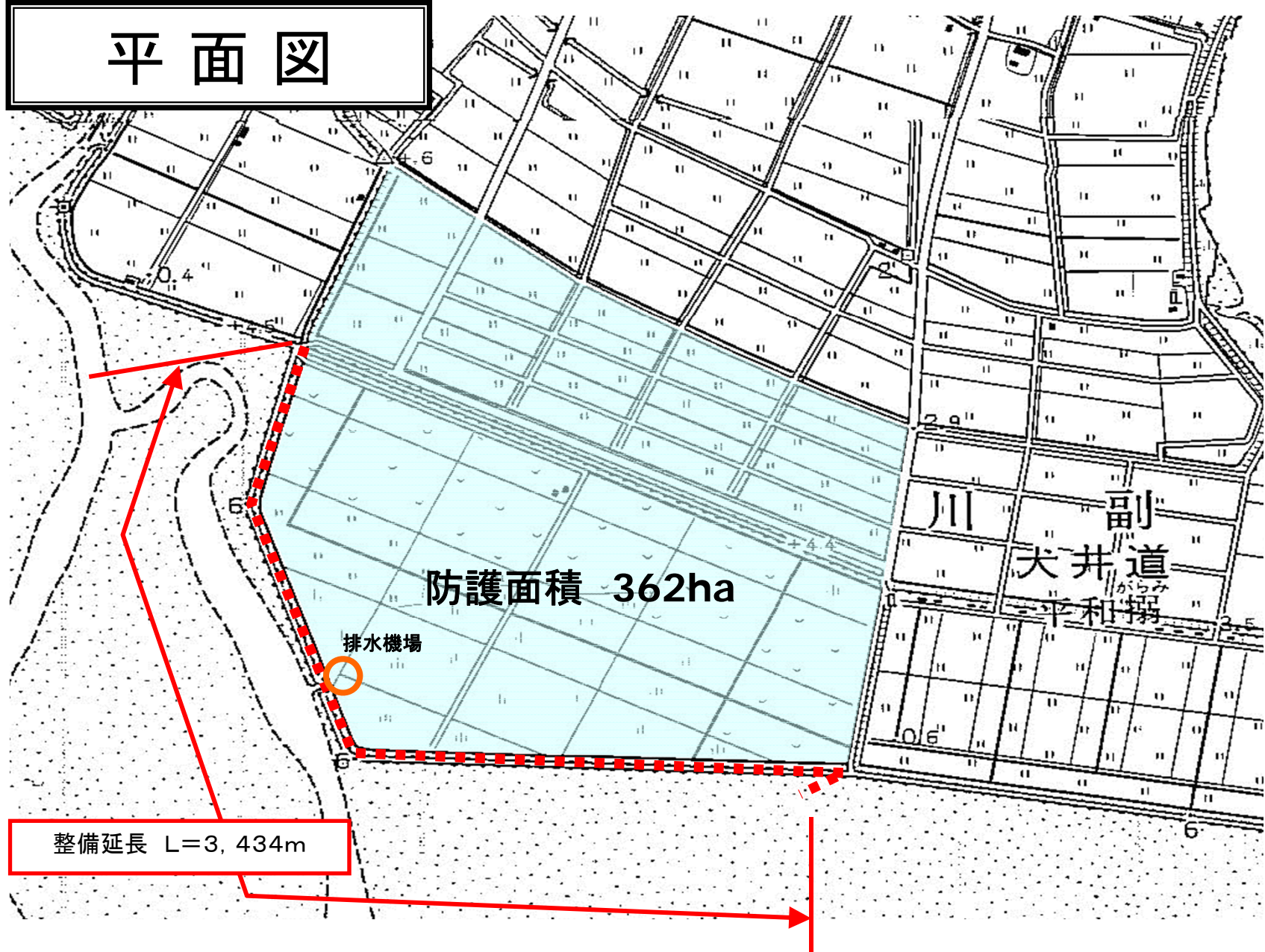
越波により吹き飛ばされたU型側溝(国造地区)

国造地区 海岸保全施設整備事業 概要

【全体計画】

- ・事業着手年度 昭和56年度
- ・完了予定年度 平成29年度
- ・整備延長 3,434m
- ・主要工種 堤防工、消波工、樋門工(1箇所)
- ・防護面積 362ha
(農用地111ha、その他251ha)
- ・総事業費 6,004百万円
- ・進捗率 55.3%(平成19年度末 事業費ベース)

平面図



費用便益比 B/C

- ・総費用C: 6,004百万円
- ・総便益B: 17,272百万円(被害防止額)

便益内訳	・農作物被害	302百万円
	(水稲、麦、大豆、キャベツ)	
	・一般、公共土木施設等被害	16,970百万円
	(水田、排水機場、空港、公園ほか)	

$$\text{費用便益比}(B/C) = 17,272 \div 6,004 = \underline{\underline{2.88}}$$

事業の継続について

事業の必要性

- ・地区は、高潮位より標高が低く、来襲する台風の規模やコースによっては、高潮災害や越波による塩害が発生する危険性がきわめて高い。
- ・背後地には、干拓事業で造成された優良農地や排水機場、空港、公園等も存在

事業の実施により

- ・防災上の安全度の向上
- ・高潮被害の解消、防止
- ・地域住民の生命・財産と安全安心の確保

以上のことから、事業の継続が必要です。